



高速しが

平成26年
1月号

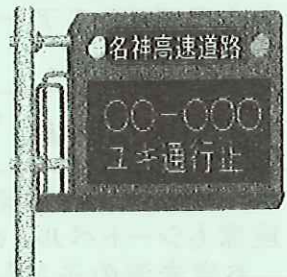
発行 滋賀県高速道路交通安全協議会・滋賀県高速道路交通警察隊

冬の高速道路 安全運転のポイント

① 交通規制を確かめてから進入する

冬の高速道路は、降雪作業により渋滞が発生するほか、降雪などの状況によっては速度規制や通行止めになることもあります。

インターネットや情報板などで高速道路情報を確認、時間に余裕を持って進入しましょう。



② 急加速・急減速・急ハンドルは事故に直結



積雪や凍結によって加速(減速)車線と本線道路では路面状況が異なるため、「急」の付く動作はスリップなど招く危険性が高くなります。加速車線ではアクセルを緩やかに踏み込む、減速車線に入るときは急減速はしないで余裕を持った運転をしましょう。

③ 車間距離に要注意

降雪時には先行車によって雪が巻き上げられる「雪煙」で視界不良となり、一瞬のうちに前車に急接近してしまうため、急ブレーキ、急ハンドルによる事故に陥りやすいのです。

「雪煙」で見え隠れする前車の影に注意し、常に車間距離を保ち安全運転に心がけましょう。



④ 制動距離の延びを知っておこう

積載重量が重いほど制動距離は伸びます。積雪、凍結路面では乾燥時よりも制動距離は更に伸びます。

積載重量が重い時ほど「緩やかな早めのブレーキング」を必要とするのです。積載重量や乗車人員を把握し、制動距離の延びを知って、早めのブレーキングに心がけましょう。



忘れずに 全席シートベルトの着用を!!

★シートベルトは“あなたの命綱”

走る車に乗っている人は、車の速度と同じ速度で進んでいるのです。人と車は一心同体、車が急に止まれないように人の体も急には止まれません。

衝突の衝撃によって、人の体は想像以上の力でハンドル、天井、フロントガラス、ドア等に叩きつけられます。

最悪の場合にはフロントガラスを打ち破って車外に放出され、重大事故となる可能性もあります。エアバッグが装備されていても、シートベルトを着用しないと十分な効果を発揮しません。



★車に乗ったら“まず シートベルト”

「シートベルトは着けた？」を合い言葉に、運転席、助手席だけでなく、後部座席もシートベルトを着用しましょう。

6歳未満の子どもを乗車させるときには、チャイルドシートの使用が義務づけられています。



落下物は、落とし主の責任です!

落下物ワースト3 (H24 NEXCO調べ)

1. フラスチック・ビニール・布類(毛布・シート類)
2. 自動車部品類(タイヤ・自動車付属品など)
3. 木材類(角材・ベニヤ板など)

落下事故を起こさないためのポイント

- ◎ 積み荷をしっかりと固縛する
固縛の方法は荷物によって違います。出発前に念入りに確認を!
- ◎ 過積載は絶対にしない
過積載や積載制限(長さ・幅)の超過が、落下事故につながります。
- ◎ 急ハンドル・急ブレーキを避ける運転をする。
急な運転操作により荷台に大きな力がかかり、落下事故を誘発することがあります。
- ◎ SAの休憩時には積み荷をチェックする
高速道路では、長時間の走行による振動で積み荷の固縛が緩みやすくなるので、SA・PAでの休憩時には必ずチェックする。